

(平成30年 7月分)

種 類	市況の概要
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	7月の水産物の総入荷量は、豪雨や台風等の気象条件が重なり、需要が多くなるはも、よこわの入荷量が減少したことから、前年同月比5%下回った。 総取扱金額は、鮮魚、冷凍魚で大きな変動はなく、全体で前年同月並みとなった。 8月に入り、さんまの棒受け網漁も小型船から順次解禁となり、秋に向け、入荷が本格化する。今年のさんま漁は、前年と比べ、サイズが大きく来遊量も増えると、水産庁は予測している。前年は不漁で品薄の日が続いたため、今年は豊漁で脂ののったものの入荷を期待したい。
鮮 魚	鮮魚の入荷量は、前年同月比で7%下回り、単価は7%上回った。 品目別には、まぐろ、さけの入荷量は上回り、単価は下回った。はも、ひらめの入荷量は下回り、単価は上回った。
冷 凍 魚	冷凍魚の入荷量は、前年同月比で11%上回り、単価は9%下回った。 品目別には、冷さけ、冷えびの入荷量は上回り、単価は下回った。
加 工 水 産 物	加工水産物の入荷量は、前年同月比で6%下回り、単価は12%上回った。 品目別には、塩さばの入荷量は上回り、単価は下回った。ちりめん、塩さけの入荷量は下回り、単価は上回った。

※鮮魚には、貝類、淡水魚を含む。

主要品目	市況の概況
(鮮 魚) ま あ じ	和歌山，京都で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月比で１４％上回り，単価は大型物主体の入荷であったため前年同月並みとなった。
ま い わ し	愛知，大阪で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月比で１２％上回ったが，単価は大型物主体の入荷であったため７％上回った。
さ ば	長崎，千葉で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月並みとなり，単価は３％上回った。
す る め い か	石川，新潟で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年が不漁であったことから前年同月比で６５％上回ったが，単価は需要が高かったため前年同月並みとなった。
太 物	入荷量，単価とも前年同月並みとなった。
は も （ 近 ）	兵庫，愛媛で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月比で２５％下回り，単価は２６％上回った。
た こ	岡山，兵庫で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月比で１１％下回り，単価は４％上回った。

※太物：まぐろ，きはだ，めばち

主要品目	市況の概況
(冷凍魚)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月比で６％下回り，単価は４％上回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月比で５％下回ったが，単価は小型物中心の入荷であったため７％下回った。
(加工水産物)	
塩 さ け	入荷量は前年同月比で１４％下回り，単価は１０％上回った。
開 干 あ じ	入荷量は前年同月と比べ５％下回ったが，単価は需要の増加がみられなかったため７％下回った。